白馬の絵馬

この絵馬については次の伝説がある。

昔、この一、二年のことであるが、田植過ぎになると、見なれない白馬がお宮の下の田圃に来て、稲を喰っている。人々に追はれると、どこともなく見えなくなってしまう。不思議に思っていた或る日の朝早く、お宮の別当がいつものように参拝に行って、白馬の絵馬を見ると、彼の白馬の姿は見えない、さては眼のせいかと思って、眼を撫でこすって見たがやっぱり見えない。その時別当はフト思い浮ぶことがあって、下の田圃に行って見た。するとはたせるかな、一匹の白馬がしきりに稲を食べていた。別当は静かに白馬を追うと、白馬はすばやくお宮の森の中に消えた。それから別当は再びお宮に上り絵馬を見ると、いつものように、白馬ははっきりと見えた。そこで別当は、田の稲を喰われては困ると、絵馬の寄進者と謀って、揮毫した絵師にたのんで、白馬を繋いだ絵に絵き直してもらった。するとそれから後は田圃で白馬を見た人がなくなった。ところがその時に、草を一緒に描き足してもらうことを忘れたので今見ると白馬は少し痩せているということだ。